2022 年 1 月 1 日発行

# 点訳通信 110号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者　竹下　亘
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作係直通）

コロナ感染で物々しい幕開けとなった２０２１年も、少しずつ光がさしてきて、ほんの僅かですが明るい気持ちになれたような気がしています。そして、２０２２年を迎えようとしている今、どのような年になるだろうと期待と不安が入り混じった気持ちでいます。もうしばらく、制限のかかったボランティア活動体制でご協力いただくことになりますが、新たな気持ちと「猛虎の勢い」で前進していきたいと思います。

どうぞよろしくお願いします。　（点字製作係　奥野真里）

【休館・休室等のお知らせ】

| | | |
|---|---|---|
| １月 | ６日（木） | ボランティア活動 再開 |
| １月 | ８日（土） | 点字製作係 休室 |
| ２月１１日（金） | | 祝日（建国記念日）のため休館 |
| ２月２３日（水） | | 祝日（天皇誕生日）のため休館 |
| ３月１９日（土） | | 点字製作係 休室 |

(C)WANPUG

## 「点訳ブラッシュアップ研修会」を開催

２月１０日（木）１０時～１１時半、当館で活動されている点訳ボランティアの方を対象に、ブラッシュアップ研修会を行います。主に、最近皆さんから寄せられた「表紙・目次・奥付の書き方」について取り上げます。

オンラインで行いますが、インターネットの接続が難しい方は、会場参加も可能です。会場参加の定員は１５名です。

お申込み・お問い合わせは、１月３１日（月）までに点字製作係（電話 06-6441-1028 または、E-mail　tenji@iccb.jp）へお願いします。

# 特別講演会レポート　読書バリアフリー法について考える

昨年１２月１１日（土）に、当館主催の特別講演会「今こそ話そう！読書ＢＦ法とボランティア活動」を開催しました。会場参加とオンラインとを併用して行ったところ、合計７０人の方が参加されました。

前半は竹下亘館長が「読書ＢＦ法の内実とボランティア活動の価値」、後半は福井哲也副館長が「ＡＩには出来ない！意味内容を伝える点訳・音訳・電子書籍」という演題で講演しました。前半の竹下館長の講演について、点字製作係の大下職員が感想を交えながらレポートをします。

## 読書の自由は“食”の自由

### 読書バリアフリー法に関する特別講演会を聴いて

点字製作係　大下 歩

竹下館長のお話のタイトルは、「読書バリアフリー法の内実とボランティア活動の価値」でした。「読書バリアフリー法」は、視覚障害者をはじめ、手に障害がある人や読字障害がある人などにとって読みやすい本を増やすべく、２０１９年６月に施行されました。その制定までの議論にかかわった立場から、この法律の画期的な点、そして課題についても、ありのまま語ってくださいました。

私がまず驚いたのは、この法律の対象になり得る人の数の多さです。視覚障害者だけでも、手帳を持っていない人を含めると、全国におよそ１６４万人。調べてみると、これはなんと、「高橋」という苗字の人よりも多いのだそうです。

もう一つ印象的だったのは、この法律の施行を受けた自治体や出版社などが、「テキストデータさえ用意すればいい」と思ってしまいがちだということです。テキストデータは、ただ文字情報をデータ化しただけのもの。そこから点字、音声、拡大文字…と、必要とされるあらゆる媒体に作り変えることができます。テキストデータだけでもある程度の内容は分かりますが、普通の本と同じように自由に開きたいところを開いたり、図や写真の中身まで分かるようにするためには、さらに人の手を加えなければなりません。

自治体や出版社の方々の気持ちも、正直わかる気がします。もしテキストデータがすべての媒体に応用が効くのであれば、比較的少ない手間でたくさんの人に使ってもらえる。でも、一人一人に合わせた読みやすい本を作るとなったら、手間がかかる割にはそれぞれの利用者は少ない。そんな風に感じてしまうのではないでしょうか。

一方、読む側の気持ちになってみると、テキストデータは白いお米のようなものかもしれません。すべての食事の基本だし、それだけでも十分おいしい。お腹がペコペコの時なら、味付けなんて気にせず、とにかくかきこむでしょう。

でも、もし周りの皆が、オムライスでもチャーハンでもドリアでも好きに選べる中で、「あなたには白米しかありません。お腹いっぱいになれば、それでいいでしょう？」と言われたら、なんだか物足りない。なにより「なんで私だけ？」といじけた気分になります。

読書バリアフリー法が目指すのは、一人一人がそれぞれ好きな時に好きな味のご飯を食べて、ほっこり幸せなひとときを過ごせる社会を作ることなのだと思いました。

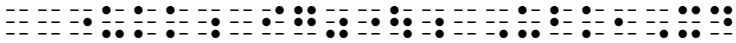
# 点訳・校正のカフェブレイクに！　その３
## ～ 適度な距離感の保ち方 ～

（点字製作係　奥野 真里）

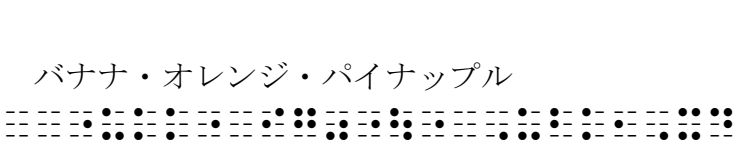
語句が並列している場合、皆さんはどのように点訳されているでしょうか？
「原本通りです」と答える方が多いと思いますが、すべて原本通りにいかないこともありませんか？
墨字にはない点字独自の特徴を理解しておけば、判断に迷った時の参考にしていただけるのではないかと思い、パターン別に、それぞれの表記の特性について考えてみました。

語句が並列している場合の主な表記方法として、墨字も点字も読点、中点がよく用いられます。

バナナ、オレンジ、パイナップル



バナナ・オレンジ・パイナップル

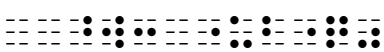


(C)いらすとや

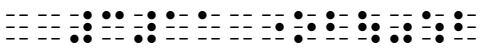
そして、皆さんもご存じの通り、これに加えて点字では２マスあけがあります。マスあけすることで、個々の言葉の意味が明解になり、文意を理解しやすくなります。墨字でカナ書きされた文章にスペースを挿入すると、意味が理解しやすくなるのと、似ています。
文章中のマスあけには、１マスあけと、２マスあけがあります。主な使い分けとしては、文中に用いるのが１マスあけ、文単位で区切りを示すのは２マスあけ、といったところでしょうか。

ところで、墨字と点字との間には異なる特徴があり、墨字と同じように点訳しても上手く表現できないことがいくつもあります。その一つが、中点の扱いです。例えば、外国人名の姓・名の間の中点や、数字の間に挿入する中点が思い浮かびます。点字にはマスあけがありますので、その働きを利用してこれらの中点は省略し、１マスあけをしたり、数符を前置した数字を続けることで、十分言葉の意味を理解することができるのです。

ジョー・バイデン



３・１１大震災



(C)WANPUG

一方、２マスあけはどうでしょう。１マスあけよりもスペースがある分、存在感があり、文字と文字の間はもちろん、文と文の間をしっかり示してくれます。まだ点字で読点や中点が使われていなかった頃は、よく２マスあけが用いられていたようです。最近は語句の区切りを表わす場合に２マスあけを使うことはずいぶん減りましたが、墨字で項目と内容をコロン（：）で結んでいる場合、コロンの部分を２マスあけすることは多いのではないでしょうか。

では、なぜ語句を並列させている場面であまり２マスあけが使われなくなったのか。
私の考えではおそらく、
① 行末に２マスあけがあった場合、そのことに気づきにくい
② 読点や中点の登場で、これらの記号が役割を果たせているから
ではないかと思います。

(C)いらすとや

バナナ、オレンジ、パイナップル、アップル・マンゴー
⠀⠀⠀⠁⠂⠂⠀⠀⠀⠂⠐⠀⠀⠀⠐⠀⠀⠀⠁⠂⠂⠁⠀⠀⠀⠐⠐⠀⠀⠁⠁⠀⠀⠀⠐⠐⠀⠀
⠐⠐⠀⠀⠁⠂⠀⠀

⠀⠀⠀⠁⠂⠂⠀⠀⠀⠂⠐⠀⠀⠀⠐⠀⠀⠀⠁⠂⠂⠁⠀⠀⠀⠐⠐⠀⠀⠀⠀⠁⠁⠀⠀⠀⠐⠐⠀⠀
⠐⠐⠀⠀⠁⠂⠀⠀

もちろん、今も語句の間で２マスあけを使うことができます。ただ、読点や中点を用いる時と少々趣が異なるように思います。例えば読点や中点を、「人と人との間に置かれているアクリル板」だとするならば、２マスあけ（１マスあけも含めて）は「ソーシャル・ディスタンス」と言えるかもしれません。つまり、読点や中点は明らかな区切りを示す記号であるのに対し、２マスあけは、前後の距離をあけて個々の区切りを示しており、記号類よりは主張が強くなく、周囲のバランスを考慮しながら区切りを示しているように考えられます。

なお、これはあくまでも私個人の考えであり、触読者によって、その感じ方は異なります。それを理解していただいた上で、記号類やマスあけの趣を考える際の参考にしていただければ幸いです。

(C)WANPUG

## 連絡事項

２月より、今年度の点訳ボランティア養成講習会を修了された６人の方が、新たにボランティアとして各グループに参加されます。どうぞよろしくお願いいたします。

(C)WANPUG